

IV. マニュアルの使い方

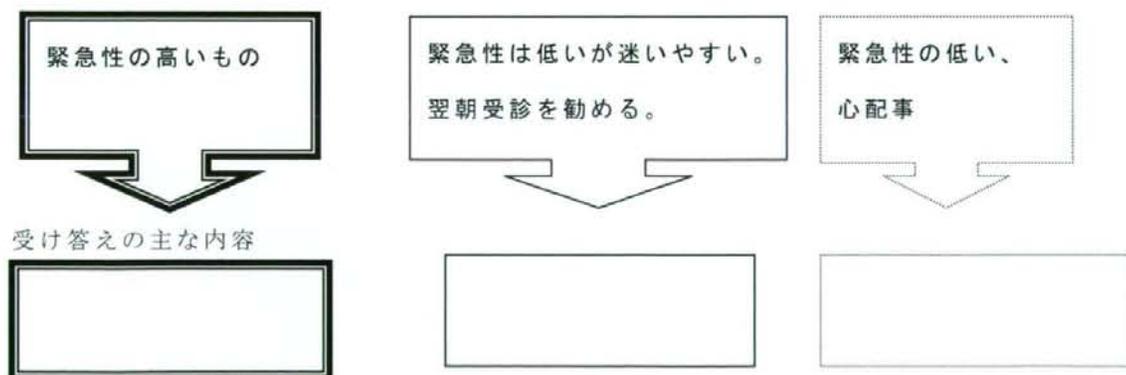
1. 各症状における、保護者に聞くポイントと緊急性の見分け方（以下のページは下記の流れで作成しています）

その症状の際、
まず聞くこと

その症状において、
緊急性を判断するために
聞くこと

* 質問から緊急性や受診のタイミングを判断する場合、㊦のブロック矢印に該当するものがあれば、ブロック矢印のフローチャートに従って答える。

* ㊦のブロック矢印に該当するものがなければ、受け手が心配な点のみ2, 3質問する。ブロック矢印内の項目すべてを確認する必要はない。



* 保護者の意図が受診の判断と違う場合は、保護者に合わせて受け答えする。ブロック内の緊急性や受診の助言にこだわらず、保護者が納得すれば電話を切る。

* 保護者は症状からかけ離れたことを心配していることもある。保護者の心配事は簡潔に説明し、子ども本人の症状や状態に立ち戻って確認する。

2. 注意事項

* 緊急性の判断の表は、トリアージのチェック表ではない。○項目を満たせば受診といった使い方をするのではなく、緊急の項目に値する症状がある場合は、さらに症状を確認し、緊急と確信した場合はすぐ行動するように助言する。逆に、詳しく聞いて緊急に値しない場合は、それに応じた対応を行う。

電話でやりとりする際は、保護者の相談内容と相談してきた理由を聞きとることを優先して対応することが大切なので、少なくとも頻度の高い相談項目はあらかじめマニュアルの内容を頭に入れておく必要がある。

* このマニュアルは、相談員のために作成されている。薬の相談やクレーム対応などは一定の教育を受けた相談員であることを前提に情報が共有されるので、このマニュアルが一般に流出することは避ける。

* このマニュアルは大阪版として作成されている。従って、次のような点に関しては各地域で検討して使いやすいものに修正が必要である。

・方言や言い回し

例：全身倦怠感を表す言葉は、「しんどい」と記載されている。

「だるい」「きつい」「こわい」「えらい」・・・地域に応じた表現に変更する。

・疾患の地域性

例：毒蛇や毒虫、水生毒性生物に遭遇しやすい地域では、その対応が必要

* 発熱

いつから？ 何℃？

機嫌は？

飲める？ 遊べる？ 眠れる？

他の症状は？

3ヵ月未満の乳児。

意識がおかしい。

顔色が悪い。

ぐったりして遊ばず、眠ってもすぐ

起きる。

呼吸が速く、息苦しそう。

いつもないのに今回は頭を痛がる。

吐いて食欲がない。

手足を動かすと痛そう。

機嫌はよくないが、遊べる・眠れる。

食欲はないが、水分や好物は口にする。

寒がったり、少し顔色が悪いが、

しばらくするとおさまりそう

(一時的だったが、おさまった)。

うなされていた(うわごとを言った)が、はっきり

目覚めると意識はある。

左記以外のその他の症状。

機嫌も

いいし、

食欲や

元気もある。

すぐ受診を勧める。

熱の高さより、機嫌・食欲・眠り方などに

注目して様子を見る。翌朝受診を。

それまでの経過を受診時に伝える。

その他の症状の中で、気になる

ものがあれば受診を勧める。

心配なことに

答える。

翌朝の状況を見

て、受診を

決めるよう

伝える。

何が心配か？

気をつける症状（子どもの状態に合ったものを伝える）

遊ばない・飲み物も何も口に入れようとしない・異様に疲れる・異様にぐずる・

ぐずって全然眠れない等

熱があるときの対処方法

水・麦茶・番茶・乳幼児用イオン飲料などの水分を飲める範囲でたくさん飲ませる。

寒がったりふるえている場合は温める。

暑そうにしたら着る物や布団を薄めにして、室温も暑すぎないように調節する。

夏はエアコンを適宜使用する。エアコンや扇風機の風を直接当てないように注意する。

氷枕や冷却シートで頭を冷やし、気持ちよさそうなら続ける。嫌がる場合はしなくてもよい。冷却シートには全身の熱を吸い取る効果はないので、熱は下がらなくても気にしない。

氷枕やアイスノンなどで首筋・脇・股などを冷やすと冷却効果はあるが、嫌がる場合は無理強いしない。

解熱剤は、使ってもよい（注意事項は次のページ）。

注意事項：電子体温計は短時間に何回も測ると、不正確になる。

発熱の際の心配事とその対応例

高熱であること

- ・子どもは大人に比べて熱が高くなりやすい。
- ・熱の高さと病気の重さ(重症度)は関係がない。
- ・高熱でも機嫌や顔色が悪くなければ緊急な状態ではない。
- ・発熱は多くの場合、ばい菌と戦うために体を守る(免疫)反応なので、
1、2回薬を飲んでも反応がおさまるには時間がかかる。

解熱剤について

- ・目安として38.5度以上で、本人がしんどそうな場合に使う。
- ・単に熱だけを下げたため、原因になる病気をなおす効果はない。高熱でもよく眠っている場合や機嫌が悪くない場合、使いたくない場合は使う必要はない。
- ・熱のために食欲がない・ゆっくり眠ることができないこともあるので、効果は一時的でも使ってよい。
- ・6-8時間はあけて使用する。その間にまた熱が上がる場合は熱のときの対処方法(下記)で、様子を見る。
- ・服薬した薬の中に解熱剤が入っている場合は、使用を控える。

・解熱剤坐薬の問い合わせに答えるときの目安(医師の指示を確認するようにする)

アセトアミノフェン坐薬:10-15mg/kg…体重5kg:1回50-75mg 10kg:100-150mg

商品名:アンヒバ50mg・100mg・200mg・アルピニー50mg・100mg・200mg・(以下は100mgと200mg)

カロナール・アニルメS・アフロギス・アテネノン・カルジール・ネオセデナール・パラセタ・アセトアミノフェン

イブプロフェン坐薬:商品名:ユニブロン50mg100m 3-6mg/kg…体重10kg:1回50mg 20kg:100mg

お薬について

- ・発熱は多くの場合、ばい菌と戦う免疫反応なので、
1、2回薬を飲んでも反応がおさまるには時間がかかる。
- ・投薬を受けた時と症状が変わらなければその薬を続け、心配であれば翌朝かかりつけ医に問い合わせる。

原因について	<ul style="list-style-type: none"> ・熱の原因はたくさんあるが、子どもでは風邪からくるものが多い ・熱の高さと病気の重さや悪い病気かどうかは関係がない ・今の状態に緊急性がない場合は翌朝診察時間帯に受診して症状や経過を伝える方が適切な診断・治療につながる。 ・受診済みの場合は、診察時と症状が変わらなければそのまま様子を見る。
状態に不安を感じて	<ul style="list-style-type: none"> ・発熱は体内で起こっている免疫反応なので、走ったときなどと同様に呼吸も脈も速くなる。眠る・水分が取れるようであれば急を要する状態ではない。
けいれんについて (p. 10 :けいれんの項目参照)	<ul style="list-style-type: none"> ・びくついていても意識があるようなら、けいれんのことは少ない。 ・もしけいれんが起きたら、倒れないようそっとねかせて時計を見る。たいてい3分以内におさまるので、その後受診する。あわてないで対処すればよい。
脳への影響 脳症の心配	<ul style="list-style-type: none"> ・高熱でも熱が高いというだけで脳に影響を及ぼすことはない。 ・脳の病気からくる高熱もあるが、頻度は少ない。 ・意識がおかしい・けいれん・嘔吐や頭痛がありひどく機嫌が悪いなどの症状がなければ、脳の病気は考えにくい。 ・うなされているのか意識がおかしいのかわかりにくい場合、しっかり起こした時に受け答えが普段通りであれば意識は正常。
脱水への不安	<ul style="list-style-type: none"> ・機嫌が悪く、おしっこが非常に少ない場合は受診。 ・水分が取れて、眠れる場合は翌朝まで様子を見る。 ・唇のしわ・皮膚がしわしわかどうかを注意して見る。

* 嘔吐

いつから、何回ぐらい、
どんなものを吐いたか？

機嫌は？
おしっこは出ているか？
他に症状は？

頻回に吐く。
非常に不機嫌・苦しそう。
尿が非常に少ない。
高熱や激しい腹痛。
その他気になる症状。
吐物が食物残渣でなく、
緑色で苦そうな臭い。
赤・赤黒い・コーヒー色で
生臭い

すぐ受診を勧める

機嫌は良くないが、
遊べる・眠れる。
吐物は、胃液か
2-3時間前に食べた物が
そのままか
4時間以上前に食べたの
に胃に残る消化物。

電話後も繰り返して吐くようなら、
受診。
30分ほど様子を見て、
吐き気がおさまってから
(顔色や表情が戻ってから)、
ごく少量ずつ水分を飲ませる。
翌日には受診を。

機嫌は悪くない。
きっかけ(咳など)が明らか
気になる他の症状も
ない。
吐物は、今食べた物が
そのままか、2時間
以内に食べた物が
ドロドロの消化物。

30分ほど様子を見て、
吐き気がおさまってから
(顔色や表情が戻ってから)、
水分を飲ませる。
翌朝は、
食欲がないか、
何か症状があれば、
受診を。

何が心配か？

気をつける症状(子どもの状態に合ったものを伝える)

すぐく不機嫌・遊ばない・飲み物も何も口に入れようとしなない・異様に疲れる・異様にぐずる・ぐずって全然眠れない

吐いた物が変！(緑色・赤黒いなど)・繰り返して大量に吐く・

下痢も加わって脱水(尿が出ない・唇にしわ・皮膚がしわしわなど)

吐いたときの対処方法

あまり心配のないとき(きっかけが明確・全身状態が悪くない・吐いた物が単なる吐物)

しばらくして落ち着いてから、水分を少し飲ませる。

おさまっているようなら、翌朝の食事は普通でよい。

また吐くようなら、何もせずに寝かせる。

少し心配なとき

(気分が悪そう・受診するほどでもないが繰り返している・吐いた物が数時間以上前に食べた物)

30分ほど様子を見て、顔色がおさまり落ち着いたころに、ほんの少しずつ水分を飲ませる。

2歳までなら1さじずつ、

3歳以上ならコップ1口ずつ

30分間に3回程度に少しずつ時間をかけて飲ませる。

水のかげらを1つずつ口に入れてもよい。多くて3個ぐらいまで。1個に5～10分程時間をかける。

水分は、水・ゆざまし・うすいお茶・乳幼児用イオン飲料・砂糖湯(湯100mlに砂糖小さじ1杯)

など。(長期間・下痢と嘔吐・脱水が疑われるなどのときは、p. 10 :ORSを勧める)

吐いた物の処理

感染症が考えられる場合は、吐いた物をすみやかに洗い流すか、ビニル袋に入れ口をしっかりと閉じて捨てる。汚れた床などは雑巾で何度か拭く。汚れた衣類や雑巾などは洗濯前までビニル袋かバケツに入れておく。これらの処理後は、水道水できれいに手を洗う。

* 下痢

どんな便(ウンチ)か?
いつから?

他に症状は?
機嫌は?

頻回の水様下痢と脱水症状

(元気がない・機嫌が悪い・唇にしわ・
皮膚がしわしわ・尿が出ないなど)。

嘔吐と下痢と脱水症状。

排便してもまだ強い腹痛が続く。

粘血便と全身状態不良。

(不機嫌・食欲がない・妙にぐずる)

下痢と発熱と全身状態不良。

頻回の水様下痢・下痢と嘔吐だが
脱水症状はなく、機嫌も悪くはな
い。

粘血便・下痢と発熱だが、全身
状態は悪くない。

翌朝には、必ず受診。

便を持参。便の扱いに注意。

(必要なら注意事項を伝える)

続く場合。

初めて。

これ下痢?

緊急性は
低い。
保護者の
心配なこと
に答える。

すぐ受診を勧める。

便を持参する。

何が心配か?

気をつける症状(子どもの状態に合ったものを伝える)

すぐく不機嫌・遊ばない・飲み物も何も口に入れようとしな
い・異様に疲れる・異様にぐずる・
ぐずって全然眠れない

水様便が大量に何回も出る・嘔吐があり脱水(尿が出ない・唇にしわ・皮膚がしわしわなど)

便をよく見ておくが、受診の決め手は全身状態

注意: 飲んだり・食べたりした直後の便: 胃に食べ物が入ると腸が動くので出る。口に入れた物がそのまま出るのではない。

下痢のときの対処方法

夜間は、水分のみ飲む範囲で飲ませる。あとはゆっくり休ませる(寝かせる)。

日中は野菜スープやりんご・おかゆ・うどん・雑炊や芋類など、炭水化物と野菜中心の食べ物にする。油っこいものを避ける。水分のみ欲しがる場合、大人のスポーツドリンクは使用しない。

便の出る前などにおなかを痛がる場合は、腹巻きなどでおなかを温める。

おむつをしている子は便のついたおむつを受診の際に持参する。トイレで排便する子はどんな形でどんな色か保護者が観察して伝える。

参考：ORS（経口補水療法）について

下痢が数日以上続いている場合・嘔吐と下痢が続く場合・脱水が疑われる場合などでは、ORSを勧めた方がよいが、できれば受診をして指示を受ける方がよい。

ORS製品は、薬局で市販されているので、購入して説明書に従う。家庭でも作ることができる。

レシピは、湯ざまし 1リットル

塩 3g(小さじ 半分)

砂糖 40g(大さじ 4杯半)

果汁(レモンやグレープフルーツなど)を加えた方が飲みやすい

電話では、指示を聞き間違えることもあるので、必要な時のみ丁寧に伝える。

* 血便・便に血が混じる

どんな便(ウンチ)か?

いつから?

何回? どのくらい?

機嫌は?

顔色は?

便全体が

赤・赤黒い・タール状で生臭い

(血の臭い)。

粘血便と発熱。

粘血便と全身状態不良。

(不機嫌・眠れない・妙にぐずる)

粘血便が出

ているが、

機嫌は

悪くない。

熱もない。

普通の便のまわりに赤い血が

着く。

普通の便か少しやわらかい便

に赤いものが混じる。

赤茶色や黒色の便。

機嫌は悪くない・熱もない。

すぐに受診を勧める。

便持参。

翌朝、受診

便を持参。

便の扱いに注

意。

肛門かすぐその中で切れた

ようなら、すぐ止まる。血便で

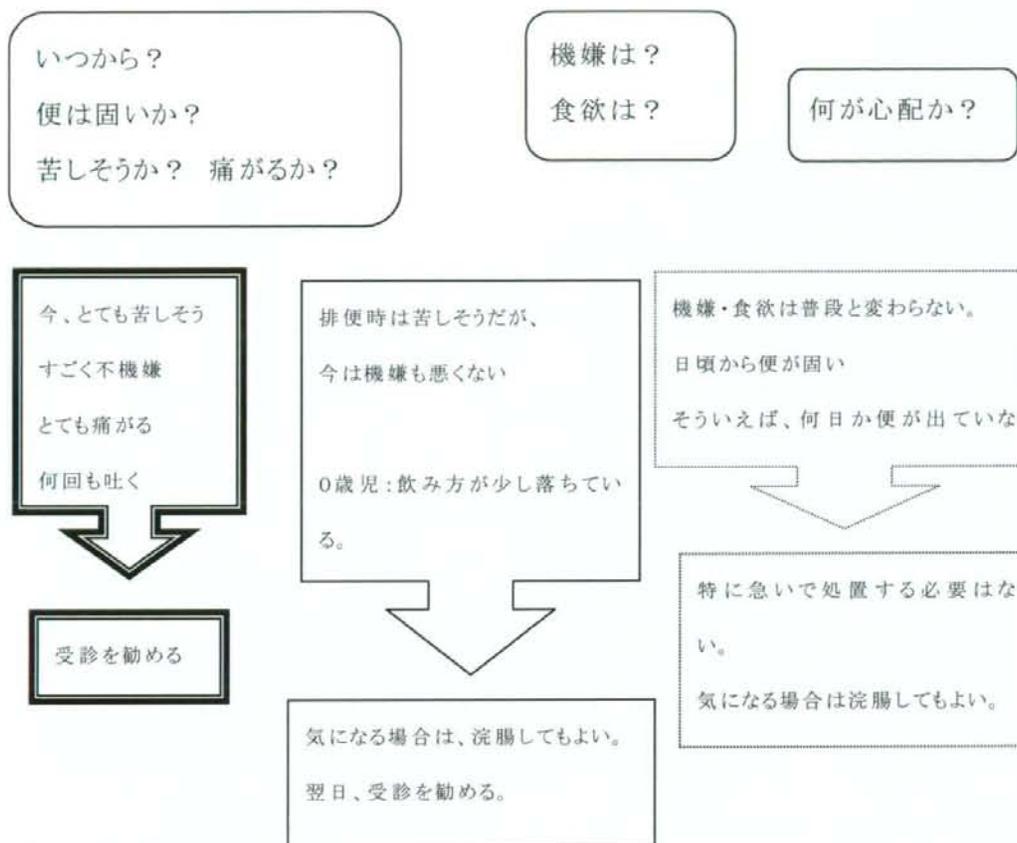
はない。繰り返すか、痛そう

なら、折をみて受診。

食物の色素が出ているの

で、病気ではない。

*便秘



参考: 何が便秘か?

便の回数や間隔は、個人差が大きいので、きちんとした基準があるわけではない。数日排便がない場合や便が固くて排便時に痛がる場合など苦痛の程度に応じて対応する。

便秘の対処方法

乳児で便がやわらかいのに出ない場合: 綿棒で浣腸する。綿棒の先をオリーブ油をつけ肛門から差し込んで、軽く回し周囲を刺激する。飲んだあと15~30分以内の方が出やすい。

便が固い場合は、果物(柑橘系・ブルーベリー・バナナなど)や芋類・海藻・ヨーグルト・バニラアイスクリームなどを食事に取り入れる。乳児の場合は、薬局でマルツエキスを購入して試みるとよい。

幼児で便が固く排便時に痛がる場合は小児科を受診し、便秘薬を使用する。

*腹痛

いつから？
おなかのどのあたり？
きっかけや思い当たる原因は？
(打撲・下痢・便秘など)

機嫌は？
顔色は？
嘔吐は？

ものすごく痛がる。
数時間前よりだんだん痛がるようになった。
同じ場所をずっと押さえてる。
吐いた・食欲が全くない。
睾丸を痛がる。

痛いと言うが機嫌は悪くない・遊んでいる。
下痢・便秘がある。
腹痛を時々訴えることがある。
顔色は悪くない・一時少し悪かったが戻った。

すぐ受診を勧める

腹部に異常がある場合は、数時間後も痛みが続くので、時間をかけて見るのが重要。

おなかをさする・排便を促す・
腹部を暖かいタオルなどで温めるなどで、
様子を見る。
あまり痛みが強ければ受診。
数時間痛みが続く場合も受診。
気になるなら翌朝受診。

何が心配か？

気をつける症状(子どもの状態に合ったものを伝える)

すぐ不機嫌・遊ばない・飲み物も何も口に入れようとしなくてじっとうずくまる・異様にぐずる・ぐずって全然眠れない・吐いた・数時間経っても痛みが続く

浣腸について

固い便など、便の影響が考えられる腹痛の場合は、浣腸すれば痛みがなくなる場合もあるので、浣腸液がある場合は家庭で試みてもよい。すごく痛がる場合や吐き気がある場合は家庭では使用しない。

* 咳・咳き込む

どんな咳？
いつから？
息が苦しそうか？

機嫌は？ 眠れるか？
飲食できるか？
熱は？ 他の症状は？

ケンケン言うような普通と違
う咳。
息を吸う時、のどのところで
ヒーヒー言う。
息がしにくそう。
不機嫌・眠れない・飲めない
など全身状態が悪い。

すぐ受診を勧める。

熱と咳があるが、今特に不機嫌で
はない・眠れそう・遊べる。
咳が続く・咳き込んで吐くなどがあ
るが、
息苦しい様子はない

家庭で様子を見て、翌朝受診を。
眠れない・息苦しそうなら受診を。

何が心配か？

気をつける症状(子どもの状態に合ったものを伝える)

すごく不機嫌・遊ばない・異様にぐずる・ぐずって全然眠れない・咳のために眠れない・
水分を飲むのも嫌がる
息(呼吸)が速い・息(呼吸)の音が気になる・

咳や ゼーゼーヒューヒュー・息苦しそうなときの対象方法

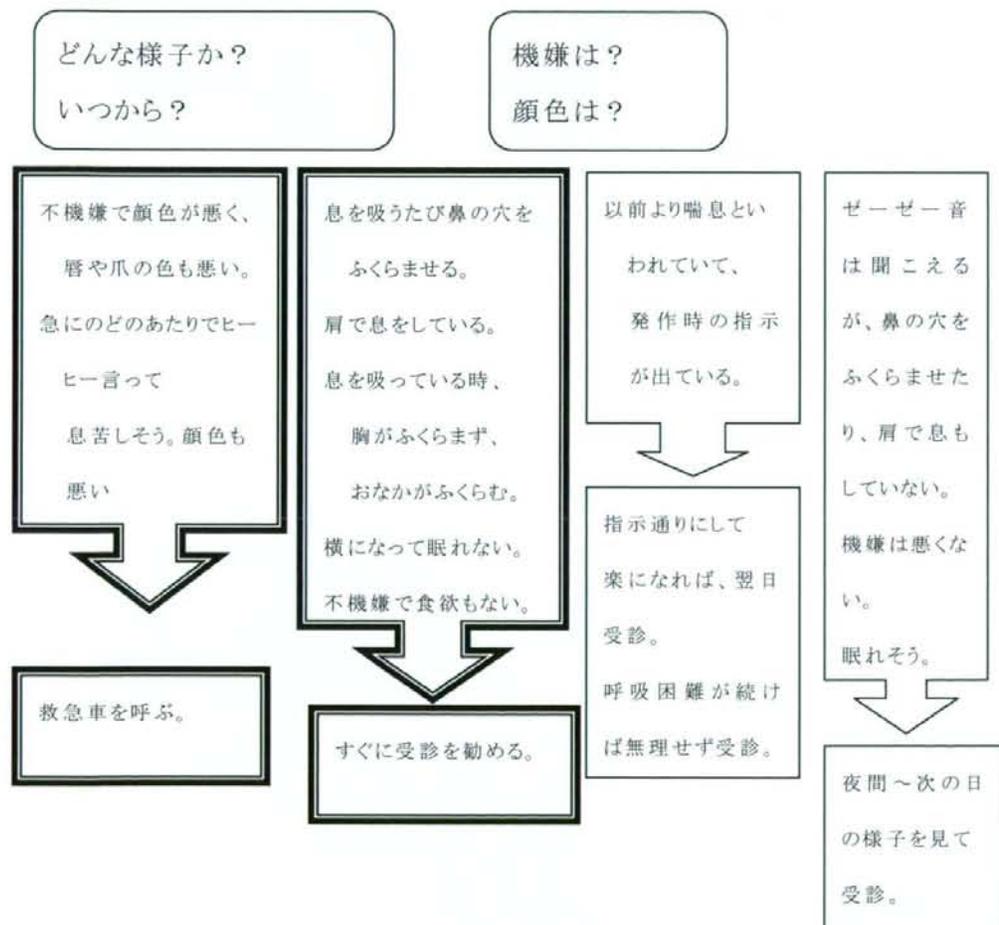
部屋を保温・加湿する。

ぬるめのお茶などを飲ませる。

冷たい飲み物や空気などのどの刺激を避ける。

温かいタオルで胸やのどを温める。(嫌がる場合はしなくてよい)

*呼吸困難・息が苦しそう・喘鳴・ゼーゼー/ヒューヒュー



気をつける症状(子どもの状態に合ったものを伝える)

すごく不機嫌・遊ばない・異様にぐずる・ぐずって全然眠れない・水分を飲むのも嫌がる
息(呼吸)の音が気になる・鼻の穴をふくらませて息を吸う・息(呼吸)が速い・肩も動かして息を吸う・胸の動きがいつもと違う など

* 胸痛

いつから？ どのあたり？
きっかけは？
原因として心配なことは？
(胸部打撲・心臓病など)

顔色は？
呼吸の様子に変わりはないか？
熱は？ 咳は？

不機嫌・何をやる元気がない。
顔色が悪い・手足が冷たい。
ひどく痛がって呼吸がしにくそう。
呼吸がいつもとちがう。
胸部強打・心疾患の既往や家族歴など。
その他気になる症状。

痛がるが、顔色や呼吸は特に
変わりがない。
熱と咳があるが、咳き込む時だけ
痛がる。
心疾患の既往歴や家族歴があり、
一時的に痛がったが今はおさま
っている。

すぐに受診を勧める。

翌朝、受診を。
顔色・呼吸の状態に影響がなければ緊急性は低い。
咳き込む場合、加湿・保温。
温かい飲み物・さする・排便を促すなども適宜
試みる。

* しゃっくり

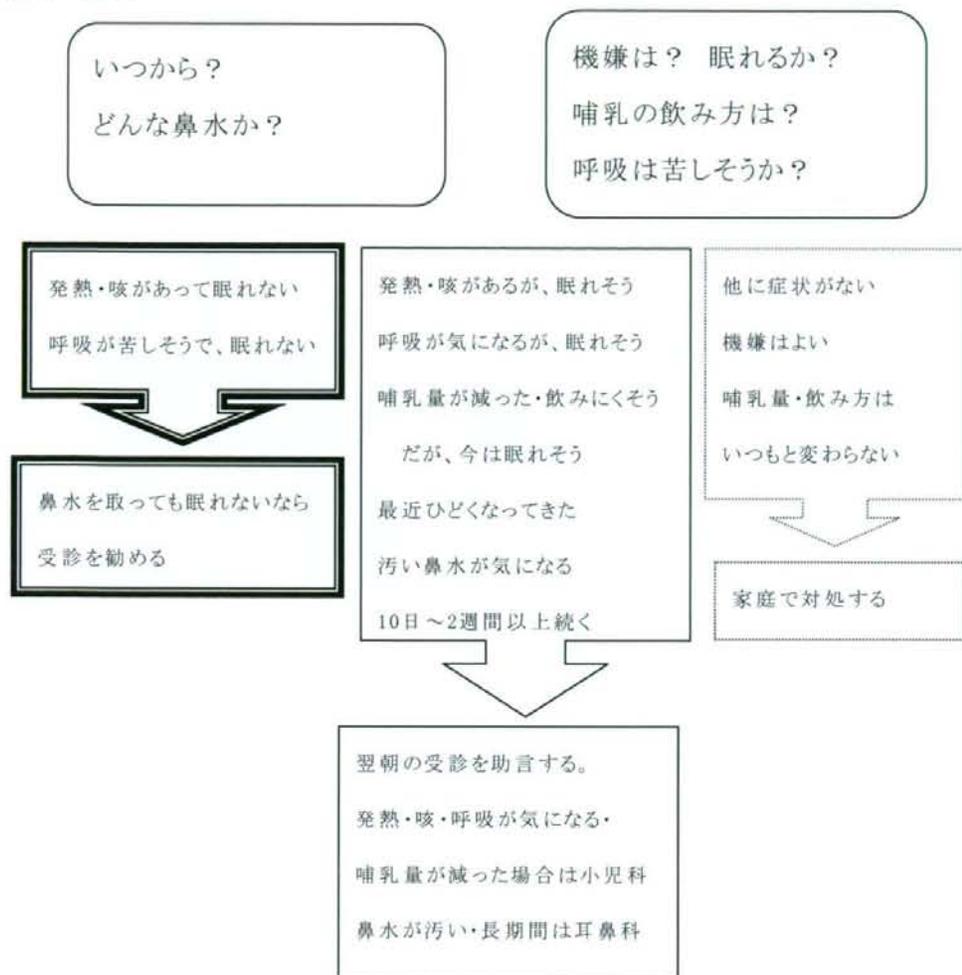
長時間続いても身体に問題はない。

対処方法：静かに座らせて、できるだけ長く息を止める。息止めを繰り返す。

紙袋で口と鼻を覆い、そのまま1分間息を吐いたり吸ったりする。

よく冷えた水を少しずつ、ゆっくり長く飲ませる。

* 鼻汁・鼻閉



鼻水・鼻づまりの対処方法:

部屋を加湿する。加湿器があればそれで。なければ、濡れタオルなどを室内に干す。

鼻を温める。熱すぎない程度の蒸したタオルを鼻の頭に近づける。3歳以後なら鼻の頭をタオルで温める。

鼻水を吸い取る。できる人は、口で。鼻水を吸うスポイト（薬局で購入）などもよい。ベビー用綿棒でそのまままたはベビーオイルをつけて取ってもよい。やりすぎて、傷つけたりしないように注意する。

こよりを使って鼻先をくすぐり、くしゃみといっしょに取る。これもやりすぎない。

*子どものひきつけ（痙攣）

1. 本当に痙攣か？

手足の動きは？ 顔色は？ 呼びかけに答えられるか？ 呼吸は？

2. 現在続いているか、もう止まっているか

今はどうなっているか？ 顔色は戻ったか？ 泣いているか？

続いている場合

継続時間を聞く。(わからない場合は今を5分として時間を測る)

10分以上続いているとすぐ救急車を呼ぶように助言。

10分以内におさまる(泣き出すか、力が抜けて呼吸し始める)場合は、それから落ち着いて救急機関に連絡し自家用車・タクシー・救急車のいずれかで受診を勧める。

どうしても今受診できなければ翌朝には必ず受診するように伝える。

止まっている場合

受け答えがおかしくても

痙攣が止まっていれば

落ち着いて救急機関に

連絡し、自家用車・タクシー・

救急車のいずれかで受診。

どうしても受診できない場合でも、翌朝には受診を。

痙攣が起こっている時の対処の仕方

静かにあお向けに寝かせて、顔を横に向け唾液や吐物が喉につまらないようにする。

口の中にもものは入れない(舌を噛むことはない)

(痙攣重積)：

治療で一刻も早く押さえる必要あり

発作が30分以上持続するか、

短時間の発作が30分以上繰り返し起こり

その間意識が回復しない場合

ダイアアップ坐薬について

(過去に熱性けいれんの経験者に使用)

目的①：発熱時の痙攣予防

タイミング：発熱に気づいた時（通常37.5℃を目安）に1回目

その8時間後に2回目を使用。3回目以降は必要なし

目的②：痙攣が重積発作にならないように使用

タイミング：痙攣が起こってから1回目

(発作中は安静・観察・時間測定を行い、おさまってからでいい)

その8時間後に2回目

注意：考え方として、短時間の痙攣はできれば止めたいが、あえて止めなくてもよい。主に発熱初期に対応しているため、時間がずれた場合投与の意味は少なくなるが、投与しても不都合はない。

解熱剤の坐薬より先に使用

ダイアアップの30分以上後に、解熱剤の坐薬を使用できる

(飲み薬の解熱剤は同時に使用して良い)

注意：解熱剤による体温下降後の急上昇もあるので、すでに高熱の場合解熱剤をあえて勧めない。

ダイアアップの使い方の問合せでは、

1. 投薬された医師からどのような説明がされているか聞く
2. 上記の説明と異なる場合、使用量・回数が極端に多くなければ
かかりつけ医の指示に従い、翌日受診を勧める。

量・回数に疑問があれば、通常量は以下の量と聞いている旨を伝えて
翌朝かかりつけ医を受診し、確認してもらう。

通常量 0.4-0.5mg/kg：10kgあたり4mg（ダイアアップ4）

15kgあたり6mg（ダイアアップ6）

25kgあたり10mg（ダイアアップ10）

* 頭を打った・頭部打撲

どこでどんな風に打ったか？
打ったときの様子は？

衝撃の強い場所(石・コンクリート・
アスファルト・鉄パイプ・風呂場のタイ
ルなど)や、
1m以上の落差
7か月以下の乳児

衝撃の弱い場所(畳・じゅうたん・フロ
ーリング・草地・砂地・軟らかい土・ゴムマ
ット・木など)で、1m以内の落差
生後8か月以上

意識がない
痙攣
大量出血
頭が異様に
へこむ

あまり泣かないが、今
特に症状はない

大声で泣く
コブができる

重症の頭部外傷の起こる
危険性は低い。
痛みは、できる範囲で冷却
する。

心配なら普通生活で、
1日間は元気がない・顔色
が悪い・吐くといった症状
がないか様子を見る。

救急車
を呼ぶ

すぐに冷やす。24時間は室内
で、できる範囲で静かに遊ぶ。
入浴しない。
元気がない・顔色が悪い・吐く
の症状があれば救急受診。
なければ、次の24時間は普通
生活で上記症状に注意。
2日間様子を見てそれ以上
症状がなければ、まず大丈夫。

すぐに冷やす。
念のため1日間は
元気がない・顔色
が悪い・吐くといっ
た症状がないか様
子を見る。
それ以上症状
がなければ、まず
大丈夫。

何が心配か？